

平成30年度 学校自己評価システムシート(埼玉県立羽生高等学校)

| | |
|--------|---------------------------------------|
| 目指す学校像 | 主体的に学ぶ力と豊かな人間性を育成し、地域に開かれた学校づくりを推進する。 |
|--------|---------------------------------------|

| | |
|------|--|
| 重点目標 | 1 生徒個々の能力や適性を把握し、少人数の良さを生かした指導方法を工夫・共有して、基礎学力の定着に努める。 2 生徒の進路意識を高めさせ、進路実現を促す指導を推進する。 3 生徒に基本的な生活習慣を身に付けさせ、社会性を培い、規律ある明るい校風づくりを推進する。 4 学校自己評価システムの効果的な活用を図り、広報活動の一層の充実と努めるとともに、地域の生涯学習機関として貢献する。 |
|------|--|

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※ 学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

| | | | |
|-----|---|-------------|-----|
| 達成度 | A | ほぼ達成(8割以上) | 4名 |
| | B | 概ね達成(6割以上) | 5名 |
| | C | 変化の兆し(4割以上) | 13名 |
| | D | 不十分(4割未満) | |

| | | |
|-----|----------|-----|
| 出席者 | 学校関係者 | 4名 |
| | 生徒 | 5名 |
| | 事務局(教職員) | 13名 |

| 学 校 自 己 評 価 | | | | 学 校 関 係 者 評 価 | | | | | |
|-------------|--|--------------------------|---|--|---|-----|---|---|-------------------|
| 年 度 目 標 | | | | 年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在) | | | | | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | 実施日：平成31年2月7日 | 学校関係者からの意見・要望・評価等 |
| 1 | 多様な生徒が在籍しており、生徒の基礎学力や学習意欲に差がある。教師一人一々が授業力向上に努め、生徒の主体的な学びを支援する必要がある。また、学習指導要領の改訂を踏まえ、教育課程や評価の研究を進める必要がある。 | 授業力向上及び生徒の学習意欲等の向上 | ①公開授業や校内研修会の実施等をおとし、授業研究を深化させ、授業力を向上させるとともに、基礎学力向上補習を実施する。 ②新学習指導要領に基づき、次期教育課程や評価の研究を進める。 ③受講の手引きを活用し、履修指導の工夫・改善を行う。 | ①7月及び12月実施の授業アンケート結果で、次のア・イの肯定的評価率が前年度を上回ったか。 ア 授業に対する意欲・関心 イ 授業のわかりやすさ ②基礎学力向上補習への参加生徒数が前年度より増加したか。 ③生徒の実態に応じた次期教育課程の編成や評価の工夫・改善が進んだか。 ④生徒の単位修得状況が向上したか。 | 様々な授業研究により授業力を向上させ、生徒の学習意欲の向上がみられた。 ①授業アンケートは、今年度質問形式を変更し、7月及び12月に実施。 ア 授業に対する意欲・関心は、10段階で6以上が前期より9.1%増加した。 イ 授業のわかりやすさは、教員への要望が前期より、「内容を簡単に」が3%減少、「授業をゆっつき」が1.6%減少、他の要望も減少してわかりやすくなっている。 ②夏季休業中に国数英3教科に「日本語基礎」を増やして学力向上補習を5日間実施。参加生徒数を増やすために、スタンダードや努力賞を導入したが、昨年度21名から12名と9名減少した。 ③日本語を母語としない生徒のための学校設定科目「国語一般」を来年度教育課程に導入。「総合的な学習の時間」では、地域の文化を知るための校外学習や交流活動を行った。来年度「総合的な探求の時間」においても引き続き探求に位置づけて実施する。平成34年度からの新学習要領導入に向け、2時間連続授業の解消やカルティベートタイム検討委員会を設置した。 ④教務部が各教科と連携し、「受講の手引き」「履修指導トラブル集」を改善した。また、担任がきめ細かく面談を行い、履修状況の改善を図ったが、出席状況が昨年度より減少し、履修成立率が前年度に比べ7%減少した。それに伴い単位修得率も昨年度に比べ7%減少した。 | A | ・高校生のための学びの基礎診断(英数国)を実力テスト等に位置付け実施。 ・学力向上補習については、低学力の生徒については任意参加とともに指定による参加の方向性も検討する必要がある。 ・引き続き次期学習指導要領に基づく教育課程の編成について検討する。 ・履修状況改善のため、長期休業明け等に登校強化月間等を検討する。 | ・学校が様々なことに苦勞され努力、工夫している様子がわかる。 ・少人数であり、また異なる学年との授業が多いので、自己理解や他者理解が進んでいる。 ・授業の工夫など良い変化が見られる。 ・学力向上補習については、日程等を考えるのと同時に、生徒に何につながるのかを強調して明示し、参加する意義を伝えることも必要がある。 ・アクティブラーニングについては、大変よく工夫し、少人数を生かしたきめ細やかな指導により、生徒同士が教え合う授業が行われていて、大変素晴らしい。 ・生徒には、自分の思い通りに行かない時に、自分で考え、工夫して壁を乗り越える力が必要だと思ふ。 | |
| 2 | 就職・進学試験に対応する力を計画的に養う必要がある。年次の早い段階からコミュニケーション能力等を育成するとともに、外部機関や外部講師の活用をおとし、組織的な取組により進路意識を高める必要がある。 | コミュニケーション能力等の育成及び進路意識の向上 | ①学校設定科目やソーシャルスキルトレーニングを活用して、生徒のコミュニケーション能力等を育成する。 ②就職支援アドバイザーを活用した取組や「進路だより」「バイト情報」等を用いた情報提供により、生徒の進路意識を向上させる。 ③外部の教育力を活用した進路行事を充実させ、生徒の進路意識を向上させる。 | ①生徒アンケートの結果や感想等から、コミュニケーション能力の向上に対して肯定的な評価を得ることができたか。 ②各種取組や支援が生徒の進路実現に結びついたか。 ③模擬授業や進路講演会等実施後の生徒アンケート結果等から、肯定的な評価を得ることができたか。 | コミュニケーション(学校設定科目)やソーシャルスキルトレーニングを活用し、コミュニケーション能力等の育成を図ることができた。また、様々な進路行事や情報提供により進路意識を向上させ、進路実績を向上させた。 ①1年次コミュニケーションや埼玉とうぶろハズと連携した自立支援事業の感想では、コミュニケーション能力の向上に対して肯定的な評価を得ることができた。 ②就職支援アドバイザーの就職及び進学希望者への面接指導や「進路だより」「バイト情報」等の情報提供により、生徒の進路意識を向上させ、卒業予定者中、7割の生徒が進路希望を実現した。 ③10月実施の演劇型進路講演会(星)の生徒アンケートでは、「参考になった」95%、夜間部仮想体験ワークでは、91%であった。 | B | ・社会で通用するコミュニケーション能力・判断力などの育成を、1年次から対応している。今後も継続することが必要である。 ・外部機関との連携、外部講師の活用を継続して行い、進路実現の一助とする。 | ・体験型進路講演会等は、大変興味深い。 ・早期離職は大きな問題である。自分と職業のマッチングを考えるべきだ。そのためには、見学と体験が重要である。 ・早期離職者をどこまでフォローするかは、なかなか難しい問題ではあるが、まず学校へ連絡させ、地元のアローワークに繋げることも必要である。 | |
| 3 | 不登校等支援を必要とする生徒に対して、引き続きSC、SSWや学習支援員等と連携を図り、生徒・保護者へ効果的な支援を行っていく必要がある。 | 教育相談を活用した支援の充実 | ①研修会や情報交換会等を実施し、教育相談や特別支援教育に対する理解を深めることができるか。 ②スクールカウンセラー(SC)、スクールソーシャルワーカー(SSW)、学習支援員等と連携し、組織的に生徒・保護者の支援を行う。 | ①教職員間の共通認識が更に進み日々の教育活動に活かすとともに、面談等に活用することができたか。 ②相談室だよりを発行し、有益な情報提供を行うことができたか。 ③行う生徒にチームで協力して対応することにより、課題解決につながったか。 | 教育相談への共通認識がさらに進み、組織的に保護者・生徒への支援が充実した。 ①教育相談情報交換会を年3回実施すると共に、教育相談部と年次、担任等が連携し、SC等と生徒・保護者との面談を計画的に実施した。また年5回面談週を設け、生徒及び保護者面談を行った。 ②相談室だよりを1月までに7回発行し、SC、SSW、さわやか相談員の来校日時を生徒及び保護者に情報提供し、保護者の面談回数も増加した。 ③中学校、前橋校、市町村福祉機関、警察、児相相談所、特別支援教育コーディネーターによる巡回指導等連携を密にして情報共有を行い、担任、年次、教育相談、生徒指導部、進路指導部が、チームで協力して対応し、課題解決につながった。 個別面談等や生徒指導講話等で社会性やマナーを育むことができた。 ①②全職員による毎日の立哨指導や、校内での巡回や年5回の面談期間の実施等日々の働きにより、特別生徒指導件数が昨年比40%となり、60%減少した。 ③保護者アンケートQ15「本校の生徒はマナーがよいで」「よく当てはまる」が昨年度13%→41%と増加していることから、生徒の規範意識が高まった。 ④来年度4月1日より「高校生の自動車・自転車等の交通安全に関する指導要項」により、交通安全に関する指導をおこなうため、生徒指導マニュアルを改訂した。 | A | ・SC・SSW・相談員との連携をより深め、相談部・担任・年次等が協力チームとして対応する。 ・外部機関との連携、外部講師の活用を継続して行い、生徒理解を深めるとともに、生徒の社会性やマナー向上を計る。 ・原付自転車や自動二輪車の免許取得や乗車について、生徒に指導を行い、保護者と連携し、高校生の命を守り、充実した高校生活の支援をする。 | ・SNSトラブルの他にも、スマホゲームなどの課金がトラブルになるケースがある。また会社情報やツイッターに於いて問題になった事件もある。情報モラルの教育が更に必要である。 ・教育相談は、保護者も相談可能ということなら、もっと保護者へのアプローチが必要である。 ・先生と生徒がフレンドリーであり、生徒が気軽に相談できる環境は大変素晴らしい。 ・頭髪や服装が基本的に自由なことが、生徒の自主性の伸張に繋がっている。元気に挨拶する生徒が多い。 ・学校行事では生徒が生徒会を中心に一致団結している。 ・ゴミの分別がやかについているが、しっかりできている。 | |
| 4 | 昨年度は、一昨年度に比べ本校HPへのアクセス数が増加した。さらに内容を充実させ、本校の特色ある教育活動を中学生・保護者や地域住民等へ広報していく。また、本校は地域の生涯学習機関としてのニーズが高い。取組内容を充実させるとともに、羽生市との連携を深め地域貢献を行う。 | 地域に開かれた学校づくりの推進 | ①本校HPや学校だより、PTA広報、羽生市報等を活用して、中学生・保護者や地域住民等へ効果的な情報発信を行う。 ②特別講座、学校公開講座の内容を充実させる。 ③生徒会を中心に地域と連携した取組を実施する。 ④「学校間の学び合い」を積極的に活用し、学校改善を行う。 | ①教育活動の様子やその他の学校情報を効率的に発信できたか。また、HPの更新数とアクセス数が増加したか。 ②開講講座の内容を工夫・改善するとともに、参加人数が増加したか。 ③地域行事やボランティア活動に参加し、地域貢献を行うことができたか。 ④「学校間の学び合い」により、他校のグッドプラクティスを導入・活用できたか。 | 情報発信や特別講座、公開講座等により地域に開かれた学校づくりを推進した。 ①教務部が主体となり他の分掌や委員会等と連携し、組織的にホームページの更新に取り組み更新数がH29と比較して倍増した。夜間部の給食は毎日アップしてあり、1日あたりの7枚以上についても微増した。 ②特別講座4講座に59名(H29:34名)、夏期公開講座10講座に74名(H29:6講座51名)の申込があり、アンケート結果は良好だった。 ③羽生市と連携した防犯活動や、自転車の交通安全学習会に参加し、全校生徒に伝達講習を実施した。また、学校周辺の清掃活動、学校説明会での運営ボランティアなどを行った。 ④「学校間の学び合い」により、他校のグッドプラクティスとして、分掌・年次・教科の自己評価システムシートの一覧化を導入し、その結果学校自己評価システムシートとの連携の可視化に活用した。 | A | ・様々な学校内外での行事(修学旅行、年次行事、部活動の大会等)を積極的にホームページに掲載する組織作りが必要である。 ・生徒会を中心に継続して羽生市と連携し、地域貢献を行う。 | ・特別講座は、地域に密着し、実用的なもの人気がある。 ・羽生市内では、自転車施設の声かけにより、羽生市内の自転車の窃盗がここ数年で大幅に減少した。今後も高校生との連携による防犯活動にご協力をお願いしたい。 ・年間を通じた特別講座や夏季特別講座など地域に開かれた学校づくりは大変素晴らしい。来年度以降も継続して欲しい。 | |